



令和2年2月21日（金）
国土交通省関東地方整備局
千葉港湾事務所

記者発表資料

浚渫工事の砂を活用して覆砂した海域で マコガレイの産卵が確認されました！！

- 千葉港湾事務所では、令和元年の5月から6月にかけて、浚渫工事で発生する砂を活用し、習志野市茜浜地先の海域にマコガレイの産卵に適した海底地形を形成する「覆砂」を実施しました。
- この取り組みは、東京湾再生に向け組織された“東京湾再生官民連携フォーラム”による政策提案「東京湾北部沿岸におけるマコガレイ産卵場の底質改善」を実現するため、同フォーラムの中の“生き物生息場づくりPT”や関係する漁業協同組合等と連携・協働して進めて来たものです。
- 昨年12月24日、生き物生息場づくりPTと千葉県水産総合研究センターが協力して実施した調査において、当事務所が覆砂を実施した地点でマコガレイの産卵が行われていることが確認されました。
- 当事務所では、工事発生土の有効活用をはかることにより、これからも同海域におけるマコガレイ産卵場の形成に役立つ取り組みを進めてまいります。

発表記者クラブ

竹芝記者クラブ、横浜海事記者クラブ
神奈川建設記者会、千葉県政記者会

問い合わせ先

国土交通省関東地方整備局千葉港湾事務所

副所長 はせがわ せいじ 長谷川 清治

工務課長 いせ つとむ 伊勢 勉

電話 043-243-9173 FAX 043-204-4559

マコガレイ産卵場の底質改善

浚渫土砂の有効活用

- 千葉港の葛南中央地区で実施する浚渫工事で発生した砂を習志野市茜浜沖の沖合に運搬。
- “東京湾再生官民連携フォーラム”の政策提案「東京湾北部沿岸におけるマコガレイ産卵場の底質改善」をはかるため、元々水深が深く、マコガレイの産卵に適さない泥質の地盤上に覆砂を実施。
- 令和元年5月16日～6月6日にかけて、約9,600m³の土砂を使用してマコガレイの産卵に適した小規模の山状の地形を複数造成した。



図-1 施工位置

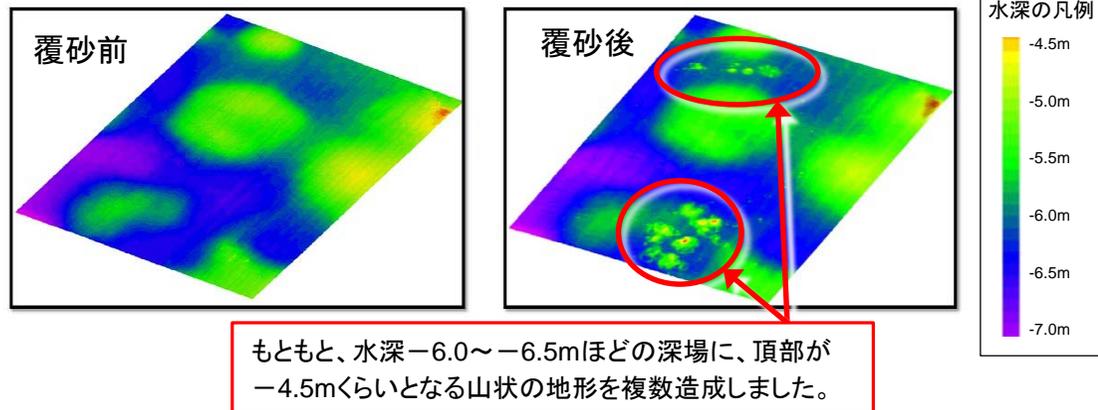


図-2 覆砂による地形の変化

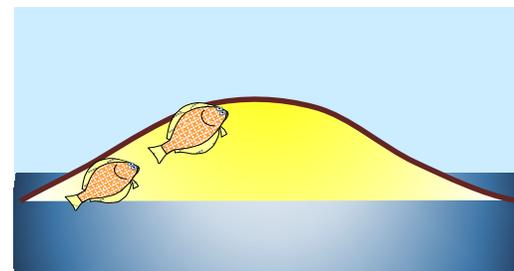


図-3 覆砂工の施工イメージ

マコガレイ産卵場の底質改善

<マコガレイ(真子鰈)>



取り組みの背景

マコガレイは主に東京湾の北部沿岸で産卵が行われているが、本種は沈性粘着卵であり、この海域の多くが泥質分の多い底質であることが卵のふ化率を低下させ、資源の減少要因の一つになっていると推察されており、小規模でも産卵場の底質を好適な環境(砂～砂礫)に改善することが、マコガレイの生活環の修復に有効であると考えられる。

【分類】

カレイ科マガレイ属

【生態】

- ・北海道西岸～九州西岸の日本海・東シナ海沿岸、北海道南岸～土佐湾の太平洋沿岸、瀬戸内海、朝鮮半島全沿岸、渤海～東シナ海北部に分布。
- ・水深100m以浅の砂泥底に生息、多毛類を主体に二枚貝、甲殻類等を食べる。
- ・産卵期は各地で概ね12～2月。

【利用】

底曳網や刺網で漁獲。白身で、刺身や煮付けで美味。

【その他】

大分県日出町沿岸の別府湾産は“城下かれい”というブランド名で流通する。

(出典: 日本魚類館～精緻な写真と詳しい解説(小学館))

(出典: 生き物生息場つくりに関する政策提案書)

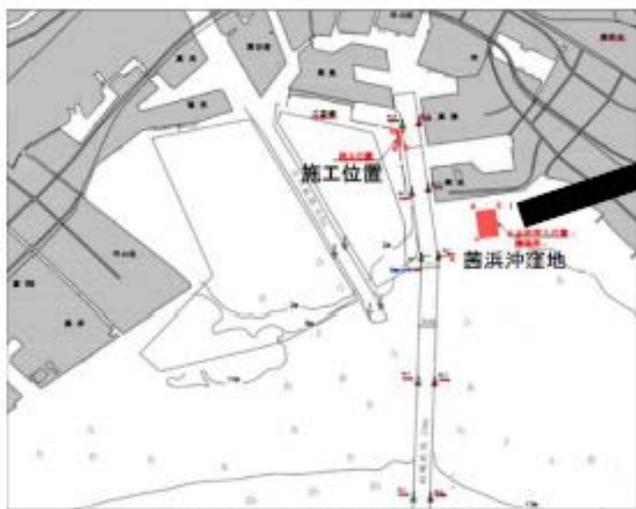


図1 調査場所
(千葉県習志野市茜浜地先)

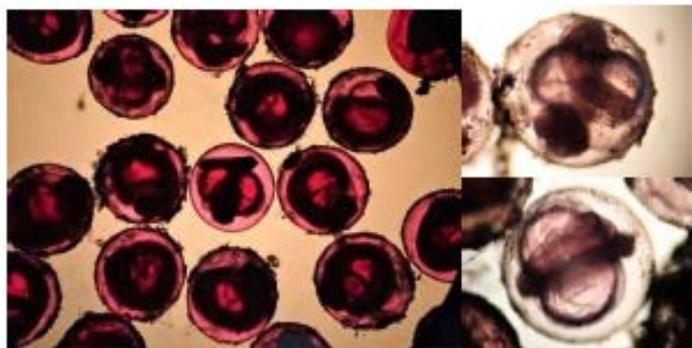


図3 採集されたマコガレイ卵
〔ローズベンガルで染色後に撮影〕
〔発生段階は胚体形成期が主体〕

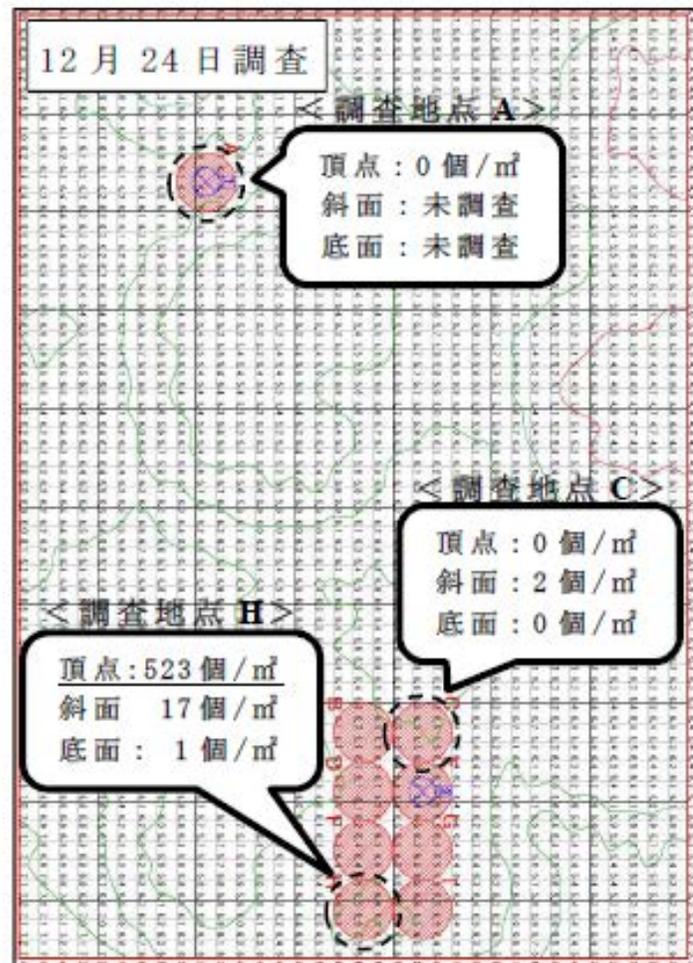


図2 調査地点と卵の分布密度
〔点線黒丸は調査地点〕
〔赤丸は底質改善場所〕

(概要説明) 2019年5～6月に良質な浚渫土砂の有効活用により社会実装された政策提案「東京湾北部沿岸におけるマコガレイ産卵場の底質改善」について、2019年12月24日に本PTと千葉県水産総合研究センターが共同で調査を行い、卵の分布状況を確認しました。調査地点は底質改善が行われた千葉県習志野市茜浜地先(図1)の底質改善場所9か所のうち3か所とし、土砂投入マウンドの頂上、斜面、底面のそれぞれで採卵ネットを曳網して行いました。その結果、調査地点3か所(A, C, H)のうち2か所(C, H)で卵が採集され、特に沖側の調査地点Hの頂点では523個/㎡と、2015～2017年における同時期の平均分布密度32～594個/㎡と比較し、高い密度で卵が分布していました(図2, 3)。今回の調査地点は、底質改善前は海底に泥質分が多く堆積し(図4左)、過去の調査で卵の分布があまりみられなかった海域でしたが、今回の調査では多数の卵が採集されました。また、卵の他、船を固定させるアンカー代わりの底びき網に、産卵後と思われるマコガレイ成魚が2尾入網しました。同時に行った底質調査では、マウンドの頂上で細砂主体の底質が維持されていることが確認され(図5)、底質改善の効果は半年以上持続していました。



図4 底質改善の前(左)と後(右)の海底

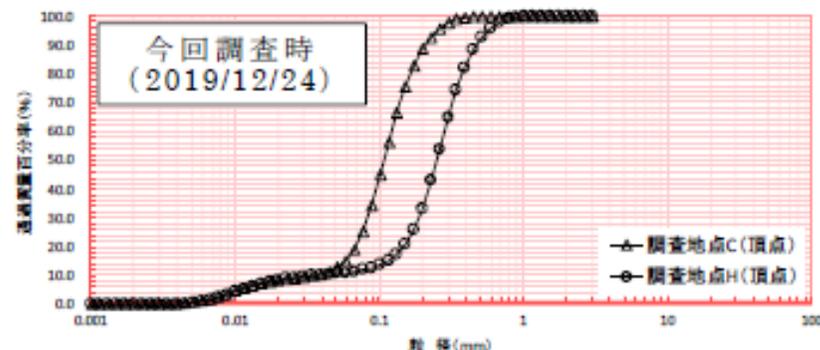
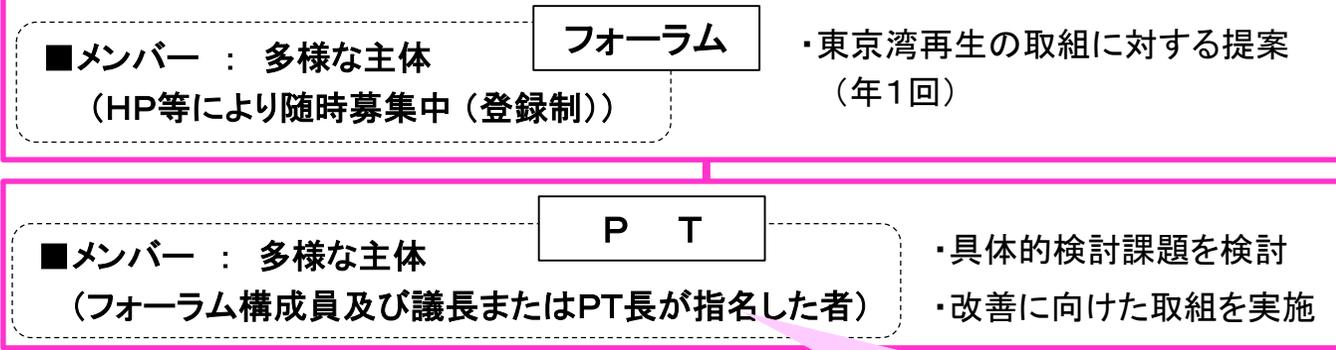


図5 調査地点の粒径加積曲線

東京湾再生官民連携フォーラムの概要

○東京湾再生に向け、企業やNPO等の多様な主体で構成される「東京湾再生官民連携フォーラム」が平成25年11月23日に設立。
 ○東京湾の環境改善に向けた活動や行動の輪を拡げつつ、豊かな海への再生を目指す。

東京湾再生官民連携フォーラム



・生き物生息場づくりPT
 ・東京湾大感謝祭PT
 …など9つのPTがある

東京湾再生推進会議

■メンバー
 行政(国・自治体)

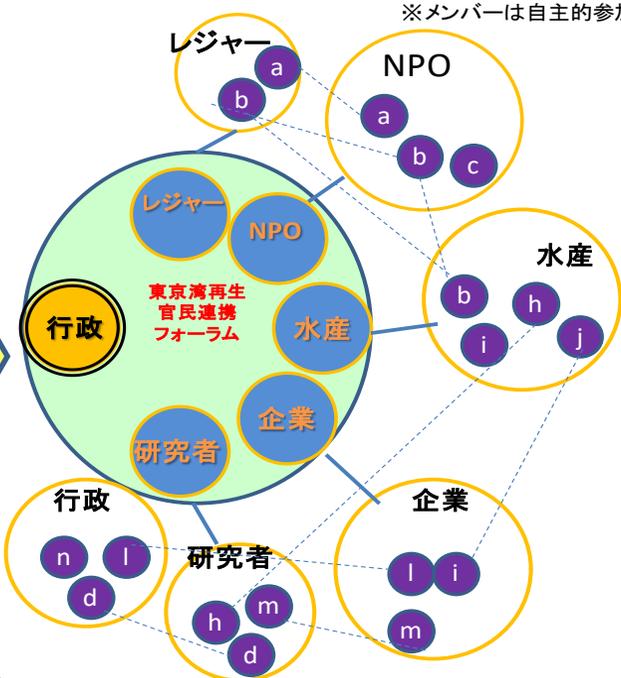
・東京湾再生を推進するため、
 行動計画を策定・推進

《行動計画の活動》

- ・陸域の汚濁負荷削減対策等 (下水道の整備・機能改善等)
- ・海域浄化対策 (干潟・浅場の保全・再生等)
- ・海域環境モニタリング・分析

提案

連携



《フォーラムの活動》

- 東京湾再生に係る課題や知見等を共有し、改善方策を検討
- 東京湾の魅力を発掘・創出・発信する取組に参画・協働
- 多様な主体の交流・ネットワークの構築
- 東京湾再生推進会議への提案